

「どんぐり倶楽部」の「良質の算数文章問題」の解き方

1.読むのは1回だけです。「何度も読みなさい」は最低の指導です。

※一度で読みとれるようにすることが練習なのに「何度も～」では「何度読んでもいいんだから～」になります。「一度しか読めないから～」という覚悟を育てることが重要です。

※国語の読解力や会話の理解力の養成にもなります。

※特に言葉（授業などの説明は全部言葉です）は1回しか聞けない上に瞬時に消えてしまいます。「何度も読みなさい」は実は禁句なのです。キチンと間違っ、て、次回、もう一度読むのです。

2.消しゴムは絶対に使わない。

※考えた（考え直した）軌跡が子供を理解する好材料になるからです。この記録が宝物なのです。

3.分かっていても絵図を描く。描きながら考えないで、描くことを楽しむ。

4.描いたら文章は見ないで絵図だけで考える。

※絵図を使って頭で考えるのではなく絵図そのもので（目で）考える：分かるようにする

5.答えが見えるように絵図を描き直す。

6.答えが出たら（見えたら）計算して確認する。

※必ず筆算で計算する。暗算は「10の補数と九九」だけに制限する。

7.要求されている設問内容に合わせて丁寧な式を作る。

※計算式は算数・数学の言葉なので過不足無く書き出す。計算式はメモなのでここでは不要。

8.答えは計算式とは別に単位に注意して書き出す。

※答案用紙には「絵図・筆算・計算式・答え」がなければいけません。

（計算式は小3～4まではなくてもOKです）

【ヒントについて】

■原則禁止ですが、全く知らない語句だけは教えます。

ただし、「分からない・知らない」と言われて「それは～」ではいけません。

知っているのに使えない（思い出せない・利用できない）だけのことが多いからです。

ここに気付かずに説明してしまうと＜知っているのに使えないから聞く＞→＜その場だけ出来る＞→＜また聞く＞の悪循環になります。

ですから、「分からない・知らない」語句でも、子供の記憶・経験の中で説明できるかどうかを探りながら、子供自身の記憶を再現させることで理解させる（説明する）ことが非常に重要です。

<注意>

●高速学習法との併用だけはしないで下さい。

●DONGURI-CDには全700題の問題と1200題以上の添削例も入っています。

「どんぐり倶楽部」の「良質の算数文章問題」の解き方

<学年別>

●小1：言葉からの視覚イメージ再現を楽しむこと。答えはオマケ。

「お絵描きに夢中で進まない」が理想的。

上手下手に関係なくオリジナルであることが大事。

豊かな表現力の源となる感味力養成が大事。

読んであげる方がいい。

自分で読めるから読ませるのはストレスになる場合が多い。

数が確定していないものでも意識できるようにする。

見えないものを見る力（描く力）が決め手！

●小2：計算式は書かなくてもいい。

こうすれば（こう考えれば）解ける（こうなる）という筋道をつけることができるようにする。

答えまでの「理論展開」を目でできるようにする。

構図による理解。

視考力養成。

●小3：視覚イメージの再現に加えて視覚イメージの操作力を視考力を活用して養成する。

絵図を描いても絵図を使わずに、計算式だけで答えを出そうとする場合には要注意。

不要な言葉は書き込まない。

●小4：絵図・筆算・計算式・答え」の4点をセットとして書けるようにする。

絵図から導いた計算式（算数語）を意識すること。

途中式（推論の軌跡）を丁寧に書く。

問題文にない数字は必ず計算式で出す（算数語で書いておく）。

●小5：「絵図・筆算・計算式・答え」を書く場所を分けて見やすく整理しながら書く。

視考力のブラッシュアップ。

簡潔な絵図でいいが線分図はなるべく避ける。

●小6：過不足無く、全体を見通しやすいように（一目で理論展開が見えるように）絵図を描く。

誰が見ても分かるように描く。

プレゼンテーション・表現力をも含めた視考力を活用した思考力養成の仕上げ。